

大阪府立茨田高等学校 平成 30 年度第 2 回学校運営協議会 記録

出席者

協議委員…川村幸治、早坂三郎、藤田政治、寺野雅之、綿世良一、濱田陽子（敬称略）

学校…（校長）亀元政志、（教頭）藤原清隆、坂東哲、（首席）西本敦史

欠席者…（首席）松井くみ子

記録…西本敦史

第一部

1. 学校長あいさつ

2. 学校経営計画の現状報告と来年度の学校経営計画作成について（藤原）

*平成 31 年度学校経営計画作成について（坂東）

*今年度実施授業アンケート結果と経年変化の分析について（坂東）

*いじめに関するアンケートの結果と分析（西本）

（協議委員からの意見）

- いじめの加害生徒に対する指導について
- このアンケートを入り口にして、生徒の立場に立って対応できる教員の能力が問われる。
- 生徒の意識によって数値の表れ方が変わるため、数字にとらわれないようにして欲しい。

*進路の決定状況（藤原）

（協議委員からの意見）

- 進路未決定者の動向を把握し、適切な指導につなげることは重要である。
- 就職先に関して近隣企業が多いのか。
（→製造業など近隣企業が多いが、販売などのサービス業では、近隣以外も多い）
- 女子の就職先と、男子の製造業以外の就職先について。
（→女子の就職希望は事務が多いが、就職先は販売などサービス業が多い。）
（→男子はホテルサービス、技術職がいる。）
- 進路が決まった者の気の緩みに対して何かしていることはあるか。
（→今後の課題である。）
- クラブ員、コミュニケーションコース選択者の、進路の関連性はあるか。
（→特に関連性はないが、進路決定に向けて努力ができ、決定は早い。）

*平成 31 年度教科書について（坂東）

（協議委員からの意見）

- 茨田高校のカリキュラムでは文系、理系に分かれているか。今後はどういう方向か。
（→今後は、理系は文理に統合する方向性である。）
- ICT の活用状況はどうか。（電子教科書などは使用しているか。）
（→全教室のプロジェクターはよく活用されている。電子教科書の使用予定はない。）
- 最近の生徒に必要な ICT 教育は、キーボードでの入力などの能力である。働く上で

は必ず必要となるため。

(→生徒のキーボード入力能力は非常に厳しい現状である。)

第二部

議長…川村様

テーマ…本校教育の全般について

●主な進路先について

卒業予定者の約65%が就職、35%が進学希望であり、就職に関しては75%が内定を得ている。

●クラブ加入率について

学校の活性度がわかる指標である。

●いじめへの対応について

- 中学では、被害生徒が納得して登校できるようになるまで加害生徒を指導。
(→大阪府のガイドラインに沿って対応している。)
- インターネット上の誹謗中傷などに対しては、学校の対応には限界がある。
スクールロイヤーの活用も必要である。
(→関係機関との連携を取って対応している。)
- 家族を含めた周りによる、被害生徒に対するケアを十分にすることが重要である。
- 学校は未然防止を十分に。(記録も十分に)
- 被害生徒の相談窓口はわかりやすく示されているか。また、SCとの連携は。
(→相談窓口だけでなく、どの教員も相談を聞けるようにしている。)
(→SCの調整や、SCの意見をその後の対応・指導にいかしている。)

●学校経営計画について

- 数値が全てではないが、数値目標を示すことが大事である。
- 教員の資質向上と授業力向上に対する取り組みも盛り込んでもらいたい。
(→来年度の学校経営計画に盛り込む。)

●授業アンケートについて

- 数年前から見て数値が上昇しているが、そろそろ数値が上がりきった印象。
教員の努力で良くなっている部分があるのに、それが見えにくくなってきている。
質問項目の検討が必要か。
(→経年の推移を表すために質問項目は変えない。数値の維持や、数値の分析はより一層おこなっていく。)

●学校開放に関して

- グラウンド開放時の利用者のマナーが悪い。
- 学校開放の利用に関しては、地域が見ていくものと考えている。どんどん地域に伝えてほしい。
- 区役所等への通報で対応できる。